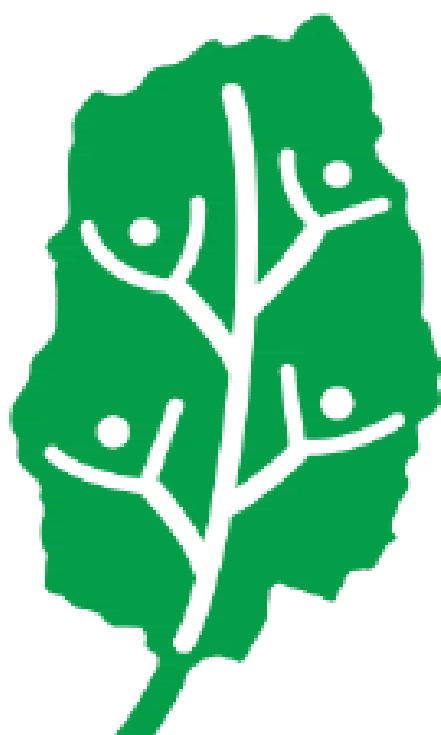


令和元年度
岩手県の若年者雇用動向調査結果



令和2年3月
いわてで働こう推進協議会

岩手県の若年者雇用動向調査 目次

概要	P. 2
集計結果要約	P. 3
在学生調査	P. 8
I 回答者の概況について	P. 9
II 今後の就職について	P. 11
III 岩手県内の企業について	P. 24
IV 在学時の就職支援について	P. 29
就労経験者調査	P. 38
I 回答者の概況について	P. 39
II 就業状況について	P. 42
III 今後の職業生活について	P. 46
IV これまでの就業について	P. 53
V 岩手県へのU・I・Jターンについて	P. 65
VI 在学時の就職支援について	P. 67
調査票（在学生用）	P. 76
調査票（就労経験者用）	P. 79
（参考）都道府県別の初任給の状況	P. 83

岩手県の若年者雇用動向調査 概要

1 調査目的

岩手県内新規学卒者の県内就職割合は大学で約4割、高校で約6割となっている中、3年以内離職率は、厚生労働省資料によると約4割となっており、全国平均より高い傾向となっている。

【新規学卒就職者の県内就職割合】

	大学	短期大学	専修学校	高校
31年3月卒	43.1%	69.3%	50.4%	69.0%
30年3月卒	43.6%	63.8%	55.4%	65.8%
29年3月卒	45.0%	63.7%	57.4%	66.3%

【新規学卒就職者の3年以内離職率】

		大学	短大等	高校
28年3月卒	岩手県	37.2%	40.8%	38.2%
	全国	32.0%	42.0%	39.2%
27年3月卒	岩手県	37.8%	38.7%	38.8%
	全国	31.8%	41.5%	39.3%
26年3月卒	岩手県	40.0%	39.7%	41.3%
	全国	32.3%	41.3%	40.8%

岩手の将来を担う人材を育成していくため、若年層の就職及び離職に係る動向を把握し、関係機関と連携した県内就職促進及び早期離職防止に向けた取組みを行うことを目的に、岩手県内に居住又は岩手県内に就業場所を有する企業に在籍する、34歳以下の者を対象に調査を実施。

2 調査方法

別途組織の岩手新卒者等就職・採用応援本部（事務局・岩手労働局）構成機関の協力の下に、事務局あて返信用封筒を添付し調査票を各機関で配布。

【在学生用】

- (1) 調査標準備数：大学生等・4550枚、高校生1000枚
- (2) 配布協力機関：岩手大学・岩手県立大学（短期大学部含む）・盛岡大学（短期大学含む）・富士大学・岩手医科大学・修紅短期大学・（一社）岩手県専修学校、各種学校連合会・県内高等学校27校、ジョブカフェ・ハローワーク

【就労経験者用】

- (1) 調査標準備数：7000枚
- (2) 配布協力機関：（一社）岩手県経営者協会・岩手県商工会議所連合会・岩手県商工会連合会・岩手県中小企業団体中央会・ジョブカフェ・ハローワーク

3 調査基準日

令和元年12月1日

4 回答結果（令和元年3月31日）現在

- (1) 在学生用・・・2,155枚（うち高校生906枚）
- (2) 就労経験者用・・・1,216枚

集計結果要約

■ 岩手県出身者の地元志向は強い

岩手県内の学生が就職を希望する地域(P. 11)は、全体では岩手県内55.2%、関東17.9%、宮城県11.7%となっている。岩手県出身者でみると、65.7%が岩手県で働きたいと思っており、関東は16.1%、宮城県は9.8%と続いている。岩手県以外の東北出身者の就職希望地域は、宮城県24.8%、関東19.3%、岩手県16.7%、の順になっている。また、岩手県外で東北以外の出身者は、41.3%が関東で働きたいと思っているが、岩手県で働きたいと思っている者も10.6%存在する。また岩手県の学生は在学区分に関わらず、比較的岩手県内への就職希望は高いが、大学(4年制)の理系学生については県内就職希望は少なく、37.8%が「関東」を希望している。【在学生調査:問2】

【在学生が就職に当たって何を重視しているか】

■ 1 就職に当たって重視しているのは、「労働条件・働きやすい職場環境」

岩手県内の学生が就職先を決める上で、最も重視していること(P. 17)は、「労働時間・休日・休暇の条件」であり(44.5%)、続いて「企業の雰囲気が良い」(38.4%)を重視する者が多いが、その次に「仕事の内容・職種」(35.6%)、「賃金の条件が良い」(32.2%)、「自分の技能・能力・専門性が活かせる」(27.7%)、「自分が成長できる、能力を伸ばすことができる」(27.4%)と続き、自分の技能・専門性よりは、労働条件や働きやすい職場環境を望んでいる学生が多いと云える。また岩手県出身者は「労働時間・休日・休暇の条件」、「企業の雰囲気が良い」、「企業(雇用)が安定している」等、労働条件・働きやすいを重視する傾向が強く、一方で県外出身者は「自分の成長できる、能力を伸ばすことができる」、「仕事の内容・職種」、「自分の技能・能力・専門性が活かせる」等、技能や専門性を重視する傾向が強い。【在学生調査問4】

■ 2 在学生と就労経験者では重視する内容が異なる

在学生と就労経験者を比較(P. 18)すると、在学生全体では「労働時間・休日・休暇の条件がよい」(44.5%)、「企業の雰囲気が良い」(38.4%)等、労働条件・働きやすさを重視するのに対して、就労経験者全体では「仕事の内容・職種」(37.3%)を重視する傾向が強く、また「通勤に便利である」(23.2%)、「自分の出身地」(20.9%)、「岩手で働くことができる」(20.5%)と地元志向の回答が強くなる傾向にある。【在学生調査問4関連—第1希望就職地と県内外出身者クロス集計】

■ 3 賃金条件を重視する者は、県外志向が高い

岩手県出身者で岩手県で働きたいと思っている者と、岩手県出身者で関東・宮城県で働きたいと思っている者が重視していることを比較(P. 18)すると、「賃金の条件がよい」を重視する者については、宮城県・関東を目指す傾向が窺われる。また県外出身者で「仕事の内容・職種」を重視する者については、関東、宮城より岩手県内を希望する傾向となっている。【在学生調査問4関連—第1希望就職地と県内外出身者クロス集計】

■ 4 就職が決まる段階では、労働条件よりも自分の成長性を重視する傾向

在学生在が、就職先を決める上で重視することを、卒業年次を分けて分析(大学・短大)すると(P.20)、卒業年次前の者が就職に当たって重視する上位5項目は、「労働時間・休日・休暇の条件」(46.5%)、「企業の雰囲気」(36.2%)、「仕事の内容・職種」(33.9%)、「賃金」(33.5%)、「福利厚生」(27.2%)となっているが、卒業年次の者は、「自分が成長できる、能力を伸ばすことができる」(36.1%)、「仕事の内容・職種」(33.1%)、「企業の雰囲気」(29.5%)、「労働時間・休日・休暇の条件」(27.7%)、「自分の技能・能力・専門性が活かせる」(26.5%)が上位5項目となっている。卒業年次前は「労働時間・休日・休暇の条件」や「賃金」を重視する者が多いが、卒業年次には「自分が成長できる、能力を伸ばすことができる」企業を重視する傾向となっている。【在學生調査問4 関連—卒業年次クロス集計】

【仕事に対する価値観・希望について】

■ 仕事に対する価値観は、「生きがい」・「賃金意識」・「地元志向」においてバラつき

仕事に対する価値観・希望(P.21、P.52)を聞いたところ、概ね属性別で同様の傾向にあるが、「生きがい」・「賃金意識」・「地元志向」においてバラつきがみられた。

設問①「仕事を生きがいとしたい」では、在學生では「そう思う」及び「ややそう思う」(合計で78.8%)の回答に対して、就労経験者全体(合計55.5%)となっている。また設問②「仕事は単にお金を稼ぐ手段にすぎない」の設問については、「ややそう思う」(46.5%)、「あまりそう思わない」(35.2%)と結果が出たが、高校・専門学校・短期大学校・短期大学・大学(4年制)については「ややそう思う」の構成が大きい。一方で高等専門学校・大学(6年制)・大学院については「あまりそう思わない」の構成が大きい。設問③「忙しくても賃金の高い職場で働きたい」については、「ややそう思う」(42.2%)、「あまりそう思わない」(36.4%)の回答で、在学区分で見ると、高校・専門学校・専門高等学校・短期大学校については「ややそう思う」の構成が大きい、大学(4・6年制)については「あまりそう思わない」の割合が大きくなる傾向(大学院は同数)にある。また設問④「できれば地元(自宅から通える所)で働きたい」では、在學生全体が「そう思う」(32.7%)、「ややそう思う」(26.9%)、「あまりそう思わない」(26.1%)と、比較的分散された回答であったのに対して、就労経験者全体では「そう思う」(52.6%)と地元志向傾向が強くなっている。【在學生調査問5、就労経験者調査問4】

■ 高校生の岩手県内企業の知名度は大幅に改善。全体では若干の改善。

既述の通り、岩手県出身で岩手の学校に通っている者の地元志向は強いとみられるが、岩手県内に本社を持つ企業を知っている企業数を聞くと(P. 24)、一社も知らない者の割合は、高校生では33.0%と前回の調査から16.2ポイント低下しており、知名度は大幅に改善した。一方、大学や短期大学等では前回の調査から割合が増加していることから、全体では36.6%となり、前回調査から0.7ポイント低下し、若干の改善にとどまった。

【在學生調査問6】

尚、岩手県内企業を知ったきっかけ(P.25)と聞いてみると、「家族・知人からの情報」(29.0%)と最も多いが、在学区分によって、県内企業を知ったきっかけは異なる傾向にある。【在學生調査問7】

岩手県内に働きたい企業の数(P.27)を聞いてみると、「1~2社」(74.3%)が最も多く、またその企業を知ったきっかけ(P.28)は「職場体験・インターンシップ」が最も多く、学生時代の職場体験・インターンシップの経験が、働きたいと思わせるきっかけ作りとなっている。【在學生調査問9、10】

■ 高校生の就職先決定に当たっては、学校関係者の与える影響が大きい

就労経験者に対して、初めて働いた企業を選んだ際に重視したことも調査(P.56)したが、就労経験者が初めて働いた企業を選んだ際に重視した項目を学歴別にみると、全体の51.7%を占める高校卒では、「仕事の内容・職種」(34.5%)、「通勤に便利である」(27.3%)、「自分の出身地」(23.4%)の順になっており、全体の24.5%を占める大学(4年制)卒では、「仕事の内容・職種」(40.3%)、「労働時間・休日・休暇の条件がよい」(25.8%)、「自分の出身地」(21.8%)の順になっている。いずれも「仕事の内容・職種」はトップであるものの、次点では高校卒では通勤条件や出身地であるなど地元志向の傾向が強く、大学卒では出身地など地元志向に加え、労働時間・休日条件を重視した傾向となっている。

尚、「教職員からの勧め」を重視した者の割合は、高校卒では22.1%、大学(4年制)卒では2.7%となっており、高校生の就職先決定については、学校関係者の与える影響は大きい。【就労経験者調査問7】

また、誰の意見を参考にしたか(P.57)については、高校卒では「自分の意思」(43.7%)に次いで、学校関係者(31.4%)（「学校の先生」(21.1%)、「学校の進路支援課」(10.3%)の合計)が多く、大学卒では、「自分の意思」(67.4%)に次いで、「親」(16.1%)が多く、学校関係者は6.3%となる。【就労経験者調査問8】

■ 仕事内容について若年者の認識と企業での実態とのミスマッチが生じている

岩手県の平成28年3月卒の3年以内離職率は、高校38.2%、短大等40.8%、大学37.2%となっており、全国平均の高校39.2%、短大等42.0%、大学32.0%と比較すると、高校、短大等では低くなっているが、大学では高くなっている。【雇用保険事業統計】

初めて働いた企業をやめた理由については、(P.61)、「仕事上のストレス」(46.7%)、「人間関係が良くなかった」(29.1%)が多い。勤続期間が1年未満の比較的短い期間でやめた者をもとに(P.62)、「仕事上のストレス」と「人間関係がよくなかった」と答えた割合が高い。（「3か月未満」では「仕事上のストレス」が57.9%、「仕事^が合わなかった」が50.9%）

また、就労経験者が初めて企業を選んだ際には、「仕事の内容・職種」を重視した者が多い(37.3%)が、仕事の内容・職種を重視したものに限定してみても(P.63)、1年未満でやめた者は「仕事^が自分にあわない」と答えた割合も高く(「3か月未満」では44.0%、「3か月～6か月未満」では35.3%)、仕事内容について、若年者の認識と企業での実態とのミスマッチが生じていると思われる。【就労経験者調査問11】

■ 離職理由のトップは全業種で「仕事上のストレス」 次点では産業別に離職理由が異なる傾向

学校卒業後、初めて働いた企業をやめた理由については、(P.61)、全体では「仕事上のストレスが大きい」46.7%、「人間関係がよくなかった」29.1%といった職場環境についての理由により離職したと答えた者の割合が高くなっている。

回答数が40人以上の産業別にみると(P.49-51)、全業種にて「仕事上のストレスが大きい」がトップ理由であったが、次点でみると「人間関係がよくなかった」が建設業(31.6%)、製造業(31.5%)、医療・福祉が36.1%。「労働時間・休日・休暇の条件がよくない」が次点となるのは卸売業・小売業(32.6%)、宿泊業・飲食サービス業(38.9%)となっている。【就労経験者調査問11】

■ 賃金水準は低い、学生は賃金よりも、働きやすい環境を重視

岩手県内の事業所で働く若年正社員の賃金(P.45)は、正社員では「15万円～20万円未満」と答えた者の割合が37.3%と最も多くなっている一方、平成30年若年者雇用実態調査による全国の若年正社員の賃金では「20万円～25万円未満」が32.0%と最も多くなっており、全国と比べて、賃金が低い傾向がみられる【就労経験者調査問2(2)】。

また、平成30年度賃金構造基本統計調査(初任給)の都道府県別初任給水準(P.83)でも、岩手県は大学卒では191.6千円で全国第35位、高校卒では148.8千円と全国第44位となっており、初任給も低い傾向がみられる。賃金水準の上げが求められるところであるが、上記で述べたとおり、岩手県内の学生は、賃金よりも、働きやすい職場環境を望んでいる傾向がみられるため、賃金引き上げが困難な企業は、職場環境を良くする取組を行うことも効果的であると考え。

■ U・I・Jターンにおいては、希望する就業が可能となるか不安視

岩手県にU・I・Jターンをした者に対し、U・I・Jターンした理由を聞いたところ(P.66)、「実家に戻る(又は近くに住む)ため」が76.0%と最も多く、また、「配偶者の実家に戻る(又は近くに住む)ため」は7.9%となっている(複数回答)。U・I・Jターンした理由で、「希望する仕事があったため」は12.6%と低い【就労経験者調査問13】。

その際に気がかりだったこと(P.67)は、「希望にかなう内容の仕事が見つからないこと」(48.0%)、「収入が下がってしまうこと」(46.7%)の割合が高い【就労経験者調査問14】。

「実家に戻る(又は近くに住む)ため」と回答する割合が多いものの、いざ実家のある岩手県にU・I・Jターンしようとする、適当な就職先が見つからない、収入が下がってしまう、という不安を持つものが多いことが窺われる。

